

京橋の印刷

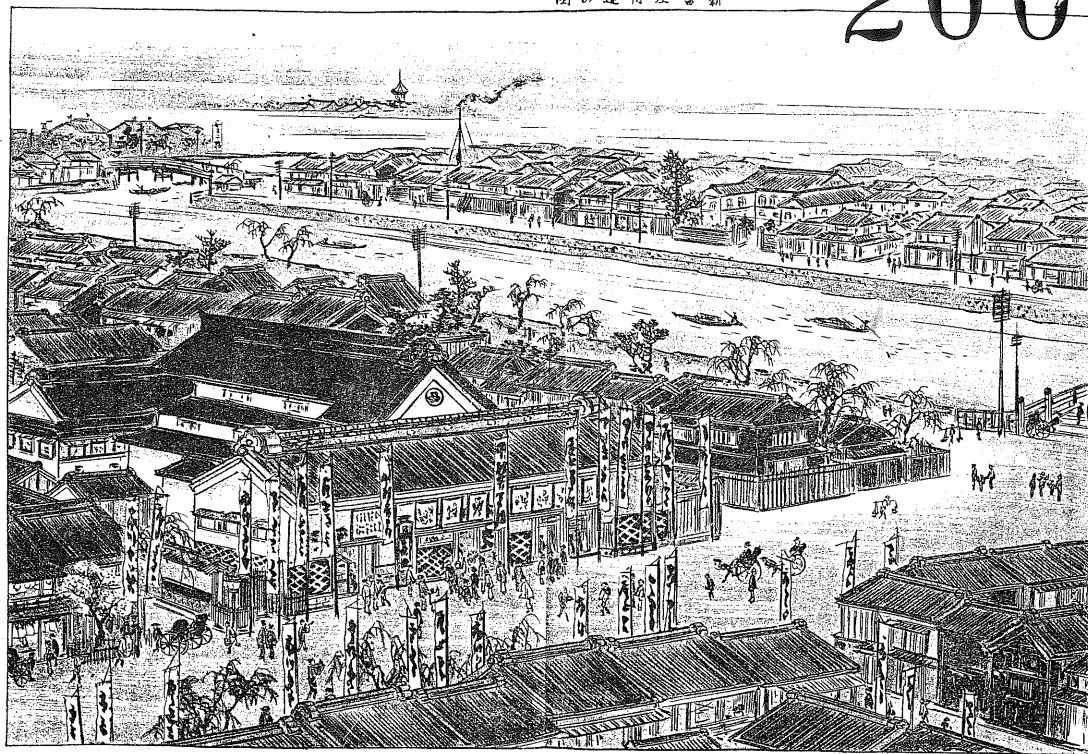
4月20日 1989・No.73

東京都印刷工業組合京橋支部
〒104 東京都中央区新富1-16-8
日本印刷会館 3F 電話 552-1855

発行人
大竹次郎

200冊

新富町の風景



はらう人 とる人 つかう人

支部長 大竹次郎

いよいよ四月一日より消費税が施行されました。我々印刷業界においても税の転嫁がはたして出来るのか経営者、営業担当者皆さん、その対応には悩んでおいでのことと存じます。政府は直間比率の税の見直し等、種々の項目を挙げてその必要性を説いています。国民の側からみれば増税以外の何ものでもありません。組合員の中には反対運動をすべきだとの声もありますが、施行された以上、今後の組合施策は業界の経済産業社会における、地位の向上に向けて、この税の転嫁を容易にする施策を行うことと思われま。本来我々業者は、消費税の納税者では無く徴税の代行をする立場に在るはずで、その点の認識が政府政治家、そして我々自身においても再考する必要があるのではないのでしょうか。納税義務免除、限界控除制度、簡易課税制度、本則課税等、何かこれらの言葉に惑わされているのではないのでしょうか。そして納税された税金はどこにいくのでしょうか。本音を建前論だけで通そうとする現代社会はすぐに不透明になってその挙句の果て茶番劇が随所で見られます。

「新年臨時総会」開催

於・熱海伊豆山・水葉亭



平成元年となった1月28日(土)、京橋支部新年臨時総会が熱海・水葉亭にて開催された。当日は暖冬の中では珍しく寒気の強い日でしたが、支部員が定刻4時に大ホールに集合した。

荒木副支部長の司会で始められ、開会のことばを増田副支部長が述べ、続いて大竹支部長が挨拶、その中で「平成時代に入り、4月から消費税が導入されるが、業界は困惑している。消費税についてもまだ細目が判っていないので、各地の説明会で消費税についての理解を深めるのが先決、そして消費税は対得意先と同様に印刷、関連業界の中でも価格転嫁が生じることが問題点である。本部の方針提示後、支部としても良

く検討してゆきたい。税率は今は3%だが、将来5%や10%にならない保証はないので、こうした認識のもとに対応したい。」と述べた。続いて議事に移り、まず退任役員への感謝状・記念品の贈呈が行われ、まず、前支部長である高千穂印刷(株)小山英美氏へ大竹支部長が感謝状を朗読し記念品と贈呈、続いて前副支部長を代表して(株)白橋印刷所白橋達夫氏へ、また前地区長を代表して大東印刷工業(株)鈴木幸男氏、前幹事を代表して大興印刷(株)佐野務氏へ、それぞれ大竹支部長から手渡されて満場の拍手をうけました。続いてその他の議事として荒木司会が意見



を求めたところ、これに於いて石曾根相談役が「東印工組では、当初、消費税に対し反対であると表明していたが、いつの間にか導入を前提として対応策の協議に入っている。何時の時点で方針を転換したのか」との質問があり、大竹支部長は「支部長会で本部の対応を聞いた限りでは、確かに「反対」から、導入を踏まえた上で出来る限り印刷業界にとつて有利な方向へ持っていくことで検討しており、日印産連も、東印工組も反対運動はしていない。この辺の事情については、小宮山副理事長がこのあと若干の補足説明があると思う」と述べた。

続いて来賓の小宮山副理事長は、「昨年来、

天皇陛下の御不例下で、永年勤続表彰式や新年の集いを中止した経過と、営業技能審査認定制度下での新しい営業マン教育事業の内容を説明した後、消費税対策は日印産連、全印工連として対策を協議して来た。当初は反対の意向を表明していたが、売上税の時に比べ制度や内容、周囲の環境の変化により、絶対反対を貫くことが難しく、印刷業界にとつて有利になるような方向で対応していこうということになった」と説明。そして「今、日印産連では業界ぐるみで価格転嫁、表示方法の両面で消費税カルテル結成を通産省紙業印刷業課のご指導を得ながら進めているところです。」と説明した。

次に中央区茂木商工課長が中央区の行政につ



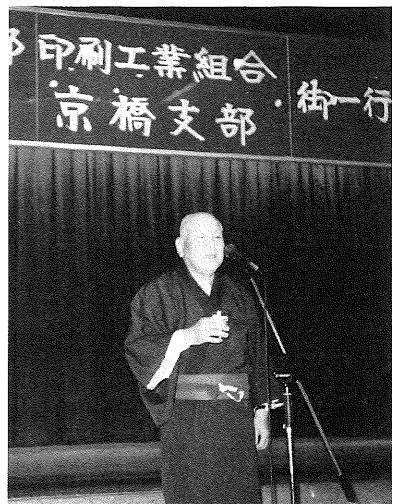
いて、また中央区工団連の児玉会長が工団連の活動についてそれぞれ挨拶をかねての説明があった。

最後に長田副支部長が閉会の言葉を述べて、5時に総会は終了しました。午後6時から始



た第二部の懇親会では、関連業界より32社の方々を交えて、総勢123名の出席で開会されました。まず、荒木司会が開会を告げて大竹支部長が関連業界の方々に来場を感謝すると共に「今後共ご支援をお願いします。」と挨拶、これを受けて関連業界を代表して、東京都製本工組京橋支部長の城所虎雄氏から「なお一層の努力をしてゆきたい」との挨拶があった。支部顧問石沢幸氏が各役員の日頃の労をねぎらい、昭和天皇のご冥福をお祈りして献杯の音頭をとり、参会者一同が甲意を表しました。しばし歓談の後、京青会の松岡会長、石井副会長の進行で、カラオケ大会に興じて、しばしの熱唱を楽しんで日頃の疲れを癒やして午後8時過ぎ、小山相談役の中締めで、お開きとなりました。

翌日は穏やかな晴天となり、朝食の後、各自三々五々、満開となった熱海の梅を見ながら帰京しました。



京青会見学研修会

恒例の京青会見学研修会が3月11日(土)、好天に恵まれて9時半印刷会館を出発、(株)山桜・昭島工場を見学、恵林寺、モンデ酒造(株)を廻って石和温泉に。途中、八王子インター料金所では、貸切りバスの前輪が摩擦の高熱で煙を噴いて立往生するというハプニングで1時間半もの遅れとなり、整備工場から修理車を呼んで修理、武

田神社は寄れず石和温泉に午後3時過ぎ到着。荒木副支部長、京青会員等18名は、のんびりと湯に浸って、日頃の煩わしさから解放されたひとときを過ごしました。
夜はホテル石庭の「ほうとう鍋」やお酒を味わいながら、加入して初めて旅行に参加した加賀美、竹山、金山君らと懇親を深めて、カラオ

ケに興じて、日頃のストレスを解消。
翌日は9時半に宿を出発、快晴ながら寒さの残る甲府の山梨県立美術館を見学、ミレー、クールベ等の名画や線描画等を觀賞して、ゴージャスな雰囲気になり、バスは一路、残雪の残る山波を縫って、富士五湖を目指し、麓まで真白に雪の残る富士山を大きく眼前に見ながら、精進湖畔の富士屋ホテルへ到着、昼食後、湖畔を散策、バスは、中央高速を快調に飛ばして、無事に午後4時、新富の印刷会館前へと到着しました。



◆ 武田信玄公の栄光とロマン 風林火山 信玄館

63年度 中央区商工業優良従業員表彰式

2月23日(木)、中央区商工業優良従業員表彰式が、10時半から中央会館に於て行われました。中央区工団連の石曾根副会長の司会により表彰



式が開会し、商店コンクール賞、優良店員表彰に続いて工業優良従業員表彰が行われました。まず10年以上勤続では、小宮山印刷(株)5名、(株)白橋印刷所4名、(株)久栄社印刷所3名、三好印刷(株)1名の13名が京橋支部では表彰されて、矢田区長から賞状と記念品が手渡されました。続いて30年以上勤続者として、京橋支部では高千穂印刷(株)の小山英久氏、(株)白橋印刷所の長瀬日出夫氏、(株)美山堂の宇井善光氏の3名が表彰されて表彰状、記念品を贈られました。
このあと中央区長、商連会長、児玉工団連会長等の挨拶が述べられて、中央区議会議長、東商中央支部長等の祝辞があり、受賞者代表の謝辞ののち、記念撮影をして終了しました。

京橋の昔の印刷小話

斎藤喜徳

京橋の印刷のことは、支部の五十年誌に詳細な記述があるので、私は、自分の肌で感じた色々のお話をしてみたいと思います。六十年も前のことなので記憶にも誤りがあるかもしれませんが、先輩の方々の叱正を賜われれば幸いです。私の子供の頃には、京橋の印刷は銀座を中心にして発達していた。朝日新聞やその他の新聞社が銀座に集り、印刷会社も秀英社や細川活版所、文祥堂印刷部、三共印刷、國光社など沢山の印刷会社が発展していた。國光社は明治四十二年頃には従業員一六〇名、当時の秀英社の半分、東京日日新聞や細川活版所の三倍の従業員を抱えていた。支配人は私がよく伺う頃（昭和初期）には長虎夫氏で警察署の署長などよりも立派でした。「斎藤の坊やよく来た」と云って喜津禰の和菓子をお土産にくれたので、子供心にもよく記憶している。また、小学校の低学年の頃には私の家の工場にいた小僧さんによくおぶさって活字屋さんに行ったことも記憶している。銀座の四丁目にあった鈴木木原文堂活版製造所や、僅か二、三回しか行ったことはなかったが、銀座五丁目のニューメルサの裏手にあった日本に於ける清朝活字の発売元弘道軒の神崎正誼氏の店もあった。この初代は明治二十四年末に死亡しているの、その後継者が経営していたと

思われる。大正末期には、清朝活字は多くの活字会社から売り出されているので、弘道軒に行ったのはよほどの画数の難しい文字であったように思う。なぜこのように少年の私の記憶に残っているかというと、この会社の前がみゆき通りで、この通りの采女橋の近くで大正天皇陛下や皇后陛下を送迎した小学校の低学年のことが強く残っていることと創始者の神崎氏が薩摩藩士の長男で西郷隆盛の旗下で東征に参加し、明治五年東京の赤坂区長になった人で官途に安んずることなく、将来は商工界に活躍しようとしたことで、単なる活字業者ではなく社会的にも立派な人であると教えられたことがあったのが頭に強く残っていたのである。

活字と言えば大正十二年の関東大震災の後に銀座の交詢社の前の角の秀英社の分室で（後の大日本印刷のビル）欧文活字を販売してくれて非常に助かったと父が喜んだことがあり、私も三、四回買いにいったことがある。築地活版にないようなゴジックのコンデンスの書体であったことも覚えていいる。このようなことは新富町の京橋税務署の並びの今の昭和信用金庫の処で三間印刷が鋳造した欧文活字を販売した（僅かな期間）。ここは見本帳を作らずに買収した九州の長崎の印刷会社のもを使用した。和紙の

袋綴の表紙に小さなクローバのデザインは今も思ひ出す。

銀座では四丁目角より築地寄りの五軒目のカツミ堂写真機店の前の英国屋洋服店のところが文進堂洋紙店で外国製の書簡用紙は、ここへ注文に行ったことも覚えていいる。また昭和の初期には銀座通りの松屋の前のカネボウの所に細川洋紙店があり、ここが細川活版の母体になったものである。このように洋紙店が銀座の大通りに店を構えていた。築地活版の話が出たがここには私の学生時代に良く使に行かされた。今の築地の懇話会館（電通の前）の所で、中には大きい丸柱のある銀行か、お役所のように立派な建物であった。ここでは販売窓口のカウンターに漢字の「之」の四吋（インチ）もあるボタンがあり、小さいもの七号位から四十八ポイント位の大きなベントンの彫刻母型と一緒に大きなガクに入れて陳列してあった。博覧会にでも出品したもののようであった。この会社で今でも不思議に思っていることがある。活字（欧文）を買うと伝票と活字と一緒に和紙（脂入紙）にこれが校正のように印刷してあり、伝票の外に何を販売したのか記録にもなる。ただ新しい活字にインキを付けて印刷したのに活字には汚れが見えない。また待っている時間が非常に永いので待合所にある大型判の印刷雑誌（郡山さんの出版）を隅から隅まで読んでしまうので、後に非常に役立つ勉強が出来た。築地活版が破産する前には経営者が宗教に凝って方位などを気にして建物の主なる人口（祝橋の

たもと)をセメントで塗りつぶしてしまった。子供心にもこれでは会社も永くないと思った。

後に第二次大戦の後、昭和二十年代の初め頃に、私の先生であった猪塚良太郎氏が今日は非常に歴史的なことが解ることになるかも知れないから少し位は酒でも呑んで辛抱なさいと、夕刻一緒に今の松竹本社の河岸のある小料理屋に案内された。終戦後のバラックの小さい建物で「清水」と言って経営者は昔の築地活版の上原技師であった。ご本人は年を取ったし、もう印刷からも離れて活字には趣味は無いと言ったが、話が進んで酒が入ると段々と古い築地活版の頃の話が次から次へと出て来て、初めとは別人のように熱が入ってきた。その時の話に明治初期に日本に輸入された活字用の鋳型は外国製で当時世界的に利用していたものであった。この時代の明治十二年にも活字の種類を築地活版は清国上海から手に入れている。明治二十七年にポイント式活字を製作の時に五号活字は昔のスマール・パイカの鋳型を利用して作ったもので、大きさを少し鋳型を拡大して三年がかりで角を一〇・五ポイントにしたことを話して下さった。その他に明治四十二年の年末にトムソン自動活字鋳造機の輸入や米国よりベントン母型彫刻機の導入と、この彫刻機を実際に使用して苦労した色々な話をして戴いた。大きな収穫であった。日本に於ける活版印刷の開拓者であり、京橋地区最大の印刷会社は昭和十三年三月、六十六年の社歴を終わっているこの会社も、もう五十六年位、終末が延びていたら現在でも盛業

していたのではないかと思われる。

築地活版より南に僅かに入った処、現在の築地小学校の斜め前の角地、現在の三菱銀行の場所は、今は中央区の史蹟として徳川幕府の御典医師であった桂川甫周屋敷跡で杉田玄白と一緒に「解体新書」を刊行した人であるが、ここはインキ業者の西川求林堂として有名である。ここに今の銀行の敷地より広い三〇〇坪位もあるお店と自宅があった。ここには黒インキが良いということでも良く買に行った。転写用のインキ(外国製)やコロムペーパーなども取りに行った。私の家のように小さな印刷所でも当時は、黒インキは求林堂、黄インキは山本、赤と藍は東洋インキ、ダブルトーン・インキは諸星等、僅かな量しか購入しないのに分けて購入していた。よく築地活版より欧文活字を購入した帰路にこの横口(自宅の入口)で当時はめづらしい自動車に女中さん二、三人に見送られて社長の奥さんがお出掛けするのに出会ったこともあり豪勢なものであったと感じた。ここを過ぎて市電通りを越えて今の市場通りの右角(ここは後に公園になった)に國光社印刷所があった。この経営者は当時の市会議員で橋本組の社長で赤十字の印刷物などもしていた。この人は築地小劇場や、その右隣りにあった映画館の同志会館とも関係が色々とあり、一風変わった経営者であった。築地にはこの他に築地二丁目の市電停留所の傍の台紙開社は明治初期よりの創業で電車通りから裏通りまでの広い敷地に塀が二重になり、正門を入ると左側が工場であつ

セット機械が昭和初期から稼働していて、右側には内塀に囲まれた社長長崎さんの自宅があり、大名(だいまよう)印刷の名を売っていた。

築地より湊町に入ると湊町五丁目に大倉書店の印刷部があり、これが湊町では最大の印刷所であった。関東大震災後にはよく会社の前の道路で社員(工場の人も一緒に)がお昼休みに体操をしていたのが印象に残っている。教科書等の印刷が多かったのか新学期前の二ヶ月位徹夜で印刷していた。四六全版のストップ・シリンダー活版印刷機の震動は二〇〇米も離れた私の家なども夜中に地響きが聞えたものである。この会社の裏通りに松藤善勝堂という活字と母型を作る店があつて、大正末期の九ポイントにルビ付の活字をつくって大手印刷会社や新聞社に納めていた。

話を戻して今の東銀座である木挽町に入ることにする。昭和初期は木挽町は印刷業界の巣であると言われて、どこの道に入っても業者が多い所であった。私の父が印刷界に入ったのも木挽町の折本五色堂が親族でお世話になって印刷を勉強した。折本喜三郎氏は京橋の区会議員にもなり、印刷組合の役員としても木挽町は折本喜三郎氏、鷺見知枝磨氏、新井由蔵氏等が活躍された。昭和に入ってから東京印刷同業組合京橋支部の集合は木挽町の万安楼で開催されたが、土屋玉葉氏や鷺見知枝磨氏、折本喜三郎氏、堀口熊太郎氏等の方々のお話を子供の私が聞いて、印刷界には何と論客が多いことかと思つた。父の話によると折本五色堂の社長も私の父も

同郷で郷里から多くの徒弟が入社してきたが、当時印刷の職人さんは三道楽の者が多くて父の郷里から来る若い人が朱に交われれば赤くなるで悪くなるのを非常に心配したが、多数のために中々監督が難しいと思ひ、若い者全員を救世軍の銀座小隊に入隊させて、キリスト教をもってこれに当たらしめた。会社が忙しくても集会には出席させるように配慮した。これは大成功で後年まで入隊したご本人より感謝された。この人達は後年まで盆と正月には父の処へ挨拶に来てくれた。酒・煙草も吞まず本当に真面目の人であつた。木挽町の印刷工場に通勤する人は、月島などから通っている人が多かつた。佃の渡し（東京市営で佃大橋附近、治作附近、勝鬨橋附近の三本の無料の渡し）橋ができるとともに逐次廃止されていったりを渡つて、木挽町や銀座に通勤していた。

私の父が新栄町（現入船町）で印刷工場を始めた頃は新栄町の方へ引込んでしまつたと言われたが、関東大震災で焦土と化してより業者は木挽町から湊町・入船町・新栄町へと移動してきた。木挽町には活字業者として中村活字さんが営業し今でも盛業している。中村活字さんの近所に川西大来堂という木版屋がありました。このお店は外の木版屋にない特殊な、昔は西洋木版（小口彫り）を彫刻されていた（図版参照）。大きな水の入ったガラスのフラスコで電球の光を強くして彫刻されていた。現在でも盛業しておられる。西洋木版は写真製版が発達しない時にカタログに機器の図版や風景などを誌

面に入れるもので、当時は写真ではできないような微細な処まで表現できる彫刻銅版（エッチング）と共に利用されていた。現在は日本を初め、世界的にこの技術はコストの面からも技術が消えてしまったようであるが、先年フランスでは国が補助して、この技術を伝承している。経済大国の日本ももう少し文化面で大人になつてもらいたい。図版に入れた顕微鏡のカタログの一頁は昭和の初期のもので、版は独逸より小口木版（西洋木版）をそのまま印刷すると版が傷むことと世界各国に送るため量が要するため電版に複製して独逸のカールトアイス会社から送られたものを印刷したものである。

京橋の南靱（さや）町の安井桃谷さんという人が私の家の木版をお願いする人でしたが、変人で納期（いつ出来ますか）を聞くと返事もしないので困つたが、この人の彫つたルビ（明朝七号）の文字は、活字に無いような難しい字で当然に画数の多いものを見事にコマ彫り（彫刻）してくれたのには驚きの外はなかつた。父は「お願いします」と置いてくれば良いものだと、この人は昔の扇面を彫っていた人で桃谷は雅号であると教えてくれた。

清朝の文字の悪いのもコマ彫りで作つてくれ、筆勢といい見事なもので得意先にも非常に喜ばれて、真の名人であると思つた。

現在は八丁堀・新川・湊町・入船町、新富町には業者が多く、地場産業として優秀な印刷会社が多く活躍している。終りに我が国の印刷史上に大きな足跡を残した築地活版製造所の野村

宗十郎氏が築地活版の社長としてまた東京印刷同業組合の京橋支部の顧問として支部行政に参加された（大正末期に色々とアドバイスされた）。大正十四年四月二十三日歿六十九才のこと。我が国に於けるポイント活字を創製すると共に後に昭和に入つて政府が単位をメートル制を採用するやメートル法の活字を製造する等、活字改良のため印刷業界に尽した業績は極めて大なるものがあり、支部としても記録に留めたものである。

メートル活字の図版を入れてあるが、これは昭和九年七月一日から当時の商工省が用紙の規格統一調査会の決定と法律的にメートル法を実施する社会の情勢を先取りして、特に新聞十三段用や一般印刷用に製作したもので、当時の産業統制合理化の一端として特に改革がやり易い新聞社に採用されるように宣伝したもので、その時流より一步進んだ企画をする会社であつた。それと一緒に明治のポイント活字の宣伝広告の一頁も図版として入れてみた。現在は、築地の同社終焉の地の懇話会館の裏手（電通ビル前）に活字発祥の記念碑が建つてその名残りをとどめている。

メートル活字

新開三十段・用一般印刷



十五・〇ミリ

十二・五ミリ

十・〇ミリ

七・五ミリ

五・〇ミリ

三・七五ミリ

二・五〇ミリ

一・二五ミリ

築地活版

が創案した

メートル活字

は規格統一を目的

として多大の犠牲を拂つて

實現せしめ其の普及に努めて居ます

から宜しく貴様の御考案をお願ひする次第であります

Special Agency, Japanese Type Foundry, Ltd., 1-10-1, Nishishinjuku, Shinjuku-Ku, Tokyo

メートル活字に就いて

規格統一は産業統制合理化の第一義として著しく唱へられて居る事實であります。吾活版界に於ては該等活字に配するにポイント式を以てし向クランツクな特種活字もあり、其の煩雜さは需要家の弊しく困難せらるる處であります。

當社は夙に此の點に着眼し之が規格統一はメートル法に依らねばならぬものと思考し、鋭意研究の結果既に其の一部を完成致しました。上掲の活字は特に新聞として、文字も之れ以上は小さくならぬも印刷とは全く獨立した立場にあり其の制度の改定は非常に容易であると存じます。依つて新聞社が擧げて採用宣傳せらるれば發行は容易であります。尙既に用紙の寸法は商工省規格統一調査會の決定九年七月一日からは法律的にメートル法を實施する次第でありますから茲に意欲ある好機に臨み其の注意を盡して各位の御一覽を願す次第であります。

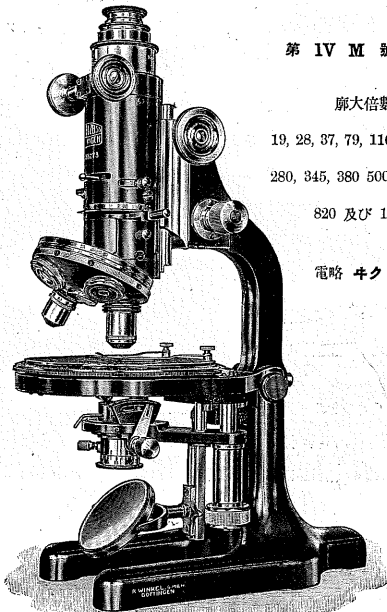
メートル法	ポイント式	ポイント式
十五・〇	四・〇	四・〇
十二・五	三・〇	三・〇
十・〇	二・〇	二・〇
七・五	一・五	一・五
五・〇	一・〇	一・〇
三・七五	〇・七五	〇・七五
二・五〇	〇・五〇	〇・五〇
一・二五	〇・二五	〇・二五

株式會社東京築地活版製所

メートル活字の印刷雑誌に掲載されたものでまわりの花型とリンカクと丸(M)にHのマークは、群青色で印刷してある。



Mineralogisches Arbeits-Mikroskop IV M
der Firma R. Winkel G. m. b. H. Göttingen
ウーケル・ツァイス製 礦物顯微鏡



第 IV M 號

廓大倍数

19, 28, 37, 79, 116, 154, 190,
280, 345, 380 500, 550, 690,
820 及び 1125×

電略 キクレ Wikle

第五百十圖 現物約二分之一大

屈折機能を有す 分劃附 360° 迴轉大型載物机、 目盛 1/10 調節固定レンズ 接物鏡は無限大∞に調整しあり	アクロマート接物鏡	ホイゲンス接眼鏡	附 屬 品
0	3 n. A. 0.35	2 (フーデンクロイツ附)	クワルツカイル
5	" " 0.60	3 (マイクロメーター附)	I-III
7	" " 0.86	4 (フーデンクロイツ附)	ギブスロート I
1.8	耗, 1.30 油浸		グリムマ針

↑

西洋木版の見本印刷物

西洋木版は、ツゲ材に彫刻したもので、私の家ではジカに印刷しているものがあつたがカタログ等には、電脂版に複製して印刷して、木の版は大切に保存していた。費用も高いので写真版にくらべて印刷は楽であり用紙もアート紙でなくて自由。

ポイント式活字の広告でこれは明治時代のもので先輩の牧 治三郎氏から頂いたものである ↓

録型工と版活式トイホ

活字製造 印刷調製 機械製造

科学的管理法の實現 能率の増進 法の基本

方々各工場の大問題たるサイエンス・クマナー・グメント御も
 科學的管理法は我々ポイント式活版に依つて生産思想を實現せり。所
 と云れば、最も多くの因數を省する七十もつて一時を省せる
 ものを「ポイント」し、これを基本として大小の割合を定むる
 活版時なるが故に決して無誤を望む生ずることなく、殊に込め
 の割合は極めて簡單明瞭にして組み版は容易なり。即ち數理を巧
 に應用せる科學的活字なり。これ工場の型にも特に適する所以
 なり、而して之を連用して併給せしは實に我東洋産活版製造
 所なり。

社 會 式 株 東
所 造 製 版 活 地 藥 京 東
地 部 七 十 日 丁 二 地 藥 區 橋 京 市 東 京



ミズノ・プリンティング・ミュージアム

入船地区の真中に、このたび新築された新社屋、ミズノプリンテック株式会社社長の水野雅生氏が印刷史の研究に当り、素晴らしい資料を収集され自宅の一部を開放してミズノ・プリンティング・ライブラリーを開設されていました。この度創業四十周年を記念して建設された新社屋の六階に従来のライブラリーを更に充実拡張してミズノ・プリンティング・ミュージアムとして開館されました。

展示されている資料は世界の印刷史上の貴重なものばかりですが、ただ、驚くばかりです。

ここにミュージアムの展示品の一部を写真でご紹介致しますとともに是非ご来館をおすすめしたいと思います。

水野社長の開館のことばを四十周年記念誌として発行された「PRITECH 今、甦える文字の印刷の歴史」の記事中から、又、月刊印刷時報'63/9月号清

水真輝雄氏の「印刷月間と印刷文化」の記事の一部を引用してお伝え致します。(斎藤収夫)

わが国の印刷文化は、奈良朝期に始まり室町時代の末期までの九世紀の間、仏教の庇護の下で仏教と共に発達して来ましたが、私共の保管する世界で最古の印刷と言われている「無垢浄光陀羅尼」、一般には「百万塔陀羅尼経」などはその代表的なものであると思います。最近では業界の中でも印刷文化の発達史に就いて大いに関心が高まっていることは誠に喜ばしいことです。私共のミュージアムにはグーテンベルクの「四二行聖書」の原葉をはじめウィリアム・モリスのケルムスコット・プレス版『チョウサイ著作集』をはじめ、これに類する各種書物、印刷物、版画を展示し更には印刷機械、器具など印刷に関する珍しい歴史的な伝承品を展示しておりますが、今後もお一層の実を図って印刷文化の実体を解明していきたいと思っております。まだまだ不十分ではありますが、少しでも印刷文化の歴史に就いて関心を持ち興味をお持ちの方々にご覧頂ければと考えております。

ミズノ・プリンティング・ミュージアム

(入船2-9-2)

館長 水野雅生



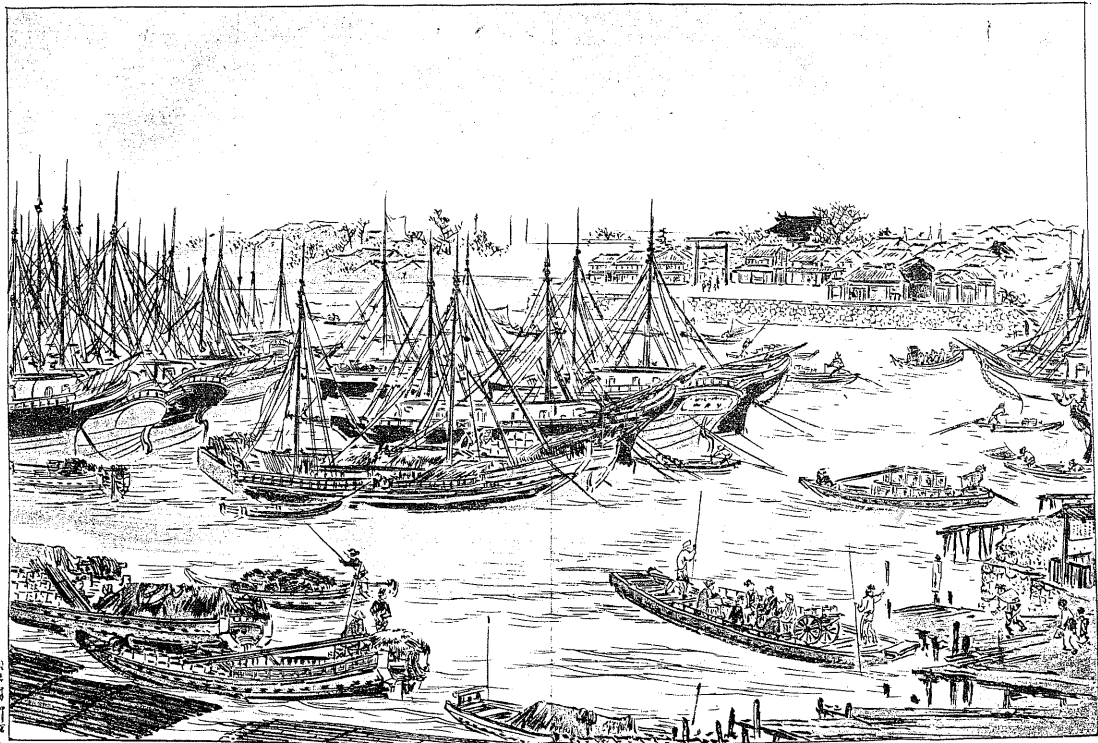
「東洋の印刷」
印仏、五山版、伏見版、嵯峨本ほか
(写真左)



「近代の印刷と三大美書」
(写真右)



「グーテンベルグ関係」
グーテンベルグ印行、カトコリン原葉、42行聖書原葉ほか (写真左)



明治時代の新富，築地地区（表紙）・入船地区風景（上図）

表紙写真は、牧氏所蔵の東京風俗画で、明治29年頃発行のもので、現在の京橋税務署の跡地にあったのがこの中央に描かれている新富座です。浅草猿若町の守田座一二世座元、守田勘弥が歌舞伎劇場の中央進出を企て、明治5年10月ここに移転開場したもので、照明にガス灯を使用して、市川団十郎・尾上左団次等の名優を集めて演劇界を風靡した。明治8年1月に新富座と改称し、一時は附近に座付の茶屋40余軒を数えたが、22年に創設された歌舞伎座に押され、衰微しながらも、大正13年の関東大震災で焼失するまで、歌舞伎を続け一時は深野座、都座と改称したこともあるが震災後は映画劇場に変わり遂に消滅した。新富座の南はすぐ築地橋で下を流れるのは築地川、左奥に架るのが軽子橋で、元禄15年の赤穂浪士の討入り後、芝の泉岳寺へ行く時にこの軽子橋を渡ったと言われています。築地川の向う中央にある大きな建物が、文海小学校でその左の煙突は風呂屋です。左奥に小さくあるのが築地明石町の居留地の洋館等で元は浅野内匠守屋敷跡地です。明治から大正へと変る過渡期を描いた今では珍しい絵です。

13頁にある築地川口を描いたものは、現在の佃大橋のたもとから海に浮ぶ小舟や帆前船を描いたものです。向うに佃島の住吉神社が見えます。この近くには尾張藩の蔵屋敷があって、そこへ紀州等から、木材や物産品等がこの帆前船で運ばれて来たそうです。斎藤顧問が子供の頃にもまだ船尾に丸に紀の字の印しを付けた帆前船が舫っていたそうです。

地区だより

入舟地区「消費税の勉強会」開催

昨年末の消費税の導入を柱とする税制関連六法案が成立し、物とサービスに幅広く課税する初めての本格的な間接税が平成元年四月一日より施行される事になりましたが、私共にとって消費税に如何に対応すべきかを考えていきました。が業界初めての一月三十日の「消費税の仕組みと印刷業界」の講演会（通商産業省生活産業局



紙業印刷業課総括班長・佐味祐介氏）も二時より開催の通知に対して一時間前に会場に行っても聴講出来ず、当日の資料も入手出来ない状態に対して地区員の皆様より不満の声が多く、私としては当日の資料の「消費税のあらまし」を翌日地区員全社におとどけると同時に「公正取引委員会の消費税に関するガイドライン（特に共同行為について）」の資料も複写して二月十日入舟地区の消費税の勉強会を開きましたところ殆んど地区員のご出席を頂き、盛会の内に

支部の動き

12月1日(木)本部支部長会 於：新宿駅ビル
12月8日(木)部長・監査・地区長会 於：支部室

1、支部長会報告事項

- 組合加入仮承認について、6社
- 能力開発計画立案の助言・相談事業
- 「東京の印刷」表紙新装について
- 印刷文化典「東京旅行団」編成、今年は支部単位の実施に委ねる

2、報告事項

- 都中小企業振興対策審議会委員の就任 11月15日付、新村理事長
- 東京都への要望について
- 出資引受け基準の改正について
- 構造改善事業推進について
- 調査表回収状況、スケジュール
- 当面の事業予定について

よき勉強会であったと思います。皆様の関心の深さに驚くと同時に「いかに悪法といえども成立すれば法律」が独り歩きするので、それに対する転嫁についての不安の声が非常に多かつたことは言うまでもありません。しかし私共にとつて業界全体での「カルテル」を初めとして顧客への消費税の転嫁に努力して行かなければならないと同時に四月以降の地区員の転嫁問題についての情報交換をして行きたいと思えます。

(地区長 齋藤 収夫)

営業士補足講習、頁物研修会、地場産業振興事業新技術研修

● 新宿プリンティングフェア、12/9、12/12

● 各種共済制度加入増強実施

● 火災共済12月12月、重点支部豊島、受託物共済制度、印刷機械共済制度

● 全印工連理事會について

3、当面する支部事業について

- 新年臨時総会次第について
- 委員会報告

● 支部報次回発行4月、新富・入舟地区

12月8日(木)京橋支部幹事会 於：銀座キャピタルホテル、部長・地区長・幹事約50名出席

12月28日(水)支部事務局仕事納め

1月5日(木)支部事務局仕事始め

1月12日(木)本部支部長会 於：印刷会館

1月12日(木)中央区工団連新年会 於：中央会館

1月19日(金)京橋製本協組新年研修会 於：中央

会館、大竹支部長出席挨拶

1月26日(木)本部理事会 於…全印健保会館

1月28日(土)部長・監査・地区長会 於…水葉亭

1、支部長会報告事項、事業推進について

・能力開発計画案の助言、相談事業の件

・賦課金改訂について

・「組合員の集い」について

・「東京の印刷」カラー表紙当番制

・「新たな時代を生き抜く業界計画」調査表の回収状況について、京橋支部84%

・日印産連事業について

2、支部提案事項

・下請代金支払遅延防止法に関する調査について

・構改調査票の回収期日の厳守について

・組合本部の印刷物の発注方法について

・消費税に対する対応について

3、当面する支部事業について

・新年臨時総会進行打合せ

・懇親会の進行打合せ

・通常総会日程、5月中旬予定

・支部報次回担当、新富・入船地区

・その他、委員会報告等

2月2日(木)本部支部長会 於…印刷会館

1、本部事業推進について協議事項

・新年度新規事業への調査について

・臨海部副都心への進出計画

・東印工組人材銀行構想

・事業者台帳回収状況について

・賦課金検討、未提出組合員の取扱い

・「東印工組印刷人の集い」6/5開催

・消費税対策について、対策委員会設置

2、支部提案事項、組合員章としての外看板について

2月16日(木)臨時部長・監査・地区長会 於…支部室

・都議選の推せん議員選定の件

・「明日の印刷業と都政を考える会」への

参加券購入について、4/17京王プラ

ザ、会費1万2千円

2月23日(木)中央区優良従業員表彰式 於…中央

会館、京橋支部から6社16名が受彰

3月2日(木)本部支部長会 於…池袋白雲閣

3月6日(月)東印工組主催消費税説明会 於…有

楽町第一生命ホール、京橋支部約60名出席

3月8日(水)新川地区消費税説明会 於…伊坂美

術印刷(株)、41名出席

3月9日(木)部長・監査・地区長会 於…支部室

1、本部事業推進について協議事項

・消費税研修会の開催、3/6国税庁直

税部法人税課、上村信彦、3/8国税

庁間税部消費税課、川根 誠

・能力開発事業よりの支援、講師謝礼、

会場費、軽飲食代等、4万円補助

・共同行為(カルテル)への対応

・消費税の転嫁及び表示に関する協定書

(案)の送付、2/14全組合員へ送付

・不参加申請状況、2/20現在ナシ

・参加者リスト作成と全印工連へ提出2

月末、組合員総数2千788名

・請求書等フォームの作成、周知

2、その他

・消費税相談窓口の設置、東京の印刷で

「配布、B5、68頁

臨時総代会の開催について、3/214

時30分、議案、理事補充選任について、

北支部、斎藤襲也氏理事辞任、神谷要

蔵氏を補充選任、書面議決参加、賛成

239、反対0

平成1・2年度総代改選について、3

16理事会を経て各支部へ、3/30迄

支部小企業部会の育成について

・火災共済第3次増強運動について

・その他買物印刷研修会について、3/

9、18時、アルカディア市ヶ谷

・新入社員養成講座について

2、支部連絡事項

・「消費税転嫁のお願い」について

・日本書籍出版協会、日本雑誌協会等顧

客上部団体への強力な申入れ

・賦課金10%のペナルティーについて

(調査票未提出者)

3、当面する支部事業について

・通常総会日時、5月12日(金)、18時 於

…中央会館7階、会費7千円

・総会準備、事業報告書作成、他

・京青会10周年事業への補助について

・都議選「明日の印刷産業と都政を考え

る会」、4/17、京王プラザ、パー

ティール券購入について検討

・「京橋の印刷」、次回発行 4 月、新富・

入船地区担当

3 月 13 日(月)中央区・工団進主催、消費税研修会

於：中央区役所、講師京橋税務署岡本圭助

3 月 14 日(火)中央区工業振興策定会議 於：中央

区役所

3 月 16 日(木)本部理事会 於：全印健保会館

3 月 24 日(金)中央区都市整備部主催「新富・入船

地区町づくり」協議会 於：中央区役所

3 月 24 日(金)中央区都市整備部主催「新川地区町

づくり」協議会 於：新川区民館

3 月 30 日(木)製本京橋と懇談 於：支部室

支部員の移動

脱退組合員 (63 年 12 月 ~ 平成 1 年 3 月)

・信光印刷(株) (入船地区) 知久信次殿

・(有)坪井印刷所 (入船地区) 坪井精一殿

・(株)政弘社 (新川地区) 小野ナツ殿

転出組合員 (63 年 3 月)

・(株)三豊社印刷所 (湊地区) 木藤健治郎殿、江

東支部へ転出。

所在地移転

・今野平版(株)東京営業所(準組合員)は、築地

3-10-4、前川ビル 5 階へ移転しました。

・(株)昇寿堂(銀座地区)の本社が新富 1-8-1

6 に移転しました。電話(552)三六三一に変わ

ります。FAX(551)八二九一

・正和印刷(株)(湊地区)は湊 3-2-9 丹波ビルへ移転しました。

慶 事

・小宮山印刷(株)(京橋地区)小宮山敬之殿長男御結婚(4 月)。

お悔み申し上げます

▼湊地区、西和印刷(株)社長、西山達雄殿が御逝去されました(12 月)

▼入船地区、永井印刷工業(株)社長御母堂、永井きみ殿が御逝去されました(1 月)

▼湊地区、東京真宏印刷(株)社長御母堂、久保田すゑ殿が御逝去されました(1 月)

▼銀座地区、(株)長島印刷所社長御母堂、長島愛子殿が御逝去されました(2 月)

▼入船地区、(有)青雲舎社長御母堂、武井きみ殿が御逝去されました(2 月)

▼八丁堀地区、和田印刷所社長、和田文二郎殿が御逝去されました(3 月)

▼八丁堀地区錦光社(株)会長徳田錦泉殿が御逝去されました。(4 月)

お知らせ

平成元年印刷人の集い(フェースショー)が 6 月 5 日、14 時より東京プリンスホテル 11 階で東印工組主催で開催されます。機材展やネットワークショップ等ありますのでぜひご参加下さい。参加一万円(懇親会)

編集後記

日本印刷会館にある東印工組本部のある新富地区はここ一、二年でその風景が一変してしまい、ビルの新築ラッシュで一昔前の面影を偲ばせる紋章の入った銅版の看板等をつけた民家が姿を消して、五、六階建てのビルに変わって、そこに勤める人も、若い人が多くなり、銀座の延長のような街並みになってきました。

昼休みもどの食堂も満員で込み合っています。これで印刷の需要が増せば尚良いのですが。

本号は新富・入船地区の編集担当となり、両地区の役員が相談して、入船地区の斎藤顧問に昔の京橋の印刷で今では貴重な苦勞話をお願いする事と、(株)ミズノプリンティングにあるプリンティングミュージアムを紹介する事になりました。

新富地区は最近の会合はないので次回にご紹介致します。表紙の写真は斎藤正文堂、斎藤顧問に貴重な昔の新富地区、築地近辺の風俗画のコピーを提供して頂いたものです。原本は牧治三郎氏の所蔵するものです。

消費税の対策の暫時的な印刷ラッシュで、どこも、てんやわんやの毎日が続いているようです。人手不足や従業員の高令化等、これからの印刷業界もだんだんと厳しさを増しそうな心配です。

(岩本書記)